

高知北高校著名人講演 映画監督 安藤 桃子さん来校



5月8日(水)高知北高校で初の試みとなる著名人講演に、高知県在住の映画監督 安藤 桃子さんをお招きして、昼間部、夜間部、通信制の三課程合同で開催いたしました。講演には生徒、教職員に加えて、保護者等や地元東石立地区の住民の方々も含めて、およそ250人の参加があり大盛況となりました。講演は安藤監督のご提案により、安藤監督の最新作「勝手に流れた星だから」の上映と、「想像と創造」の演題でご講演をいただきました。

当日はテレビ局や新聞社の取材もあり、本校の取組を県下に紹介していただきました。

上映された「勝手に流れた星だから」は、かつて木材伐採地として栄えダム湖の底に沈んだ魚梁瀬村を舞台にした25分ほどの短編映画で、主人公(県出身女優中村里帆さん)の亡くなった祖母の大切な宝物(祖母が小さい頃に大切な友達からもらった隕石)をめぐり、主人公が仲間と一緒に祖母の大切な想いを探索するストーリーでした。その中で、慣れ親しんだふるさとが湖に沈むという実情を、若者たちが複雑な感情を抱きながらそれぞれが受け止め、ほんとうに大切なものは何かということに気付いていく描写には、高知の美しい自然に加え、世代を超えて結ばれていく様々な想いが相まって、私たちの心に複雑な感情を落とし込んでいきました。

上映後の講演では、「想像と創造」という演題で、安藤桃子監督がこの映画作りの裏話や想いを、とても明るく元気に話してくれました。飾り気のないあくまで自然体の安藤監督は、私達との心の距離を一気に縮めるとともに、聴く者を魅了していきました。

講演中に話された経験談と数々のエピソードは、私たちが普段気の付かない大変貴重なもので、物事の見方や感じ方について多くの示唆を与えていただきました。身近にある高知の自然や食、人との触れ合い、思い出などがとても大切な宝物であること。そして、自然のままで自然体でいることや、いろいろなものを見たり、聴いたり、踊ったりしながら、自分がどう感じるかといった経験をたくさんすることが大事だと気付かされました。また、心でフォーカスすることで、音や匂いなど、映っていないものでさえも伝えることができることや、きっかけからドラマが生まれるといった、一見マイナスな出来事もプラスに転換していくことの大切さを学ぶことができました。生徒たちからも多くの質問が出されるなど、会場は熱気に溢れていました。



今回の講演により、生徒をはじめ聴く者を勇気づけ、何かやってみたいという思いに駆り立てられたのではないのでしょうか。とても素敵な1日でしたね。



生徒アンケートについて(記述抜粋)

数字:人数(%)

	課程	大変満足	満足	ふつう	やや不満	不満
1. 映画の満足度	昼間部	35(32%)	45(41%)	30(27%)	1(1%)	0(0%)
	夜間部	8(29%)	10(36%)	8(29%)	2(7%)	0(0%)
	通信制	7(33%)	10(48%)	4(19%)	0(0%)	0(0%)
	三課程	50(31%)	65(41%)	42(26%)	3(2%)	0(0%)
2. 講演の満足度	昼間部	51(46%)	36(32%)	24(22%)	0(0%)	0(0%)
	夜間部	12(43%)	10(36%)	6(21%)	0(0%)	0(0%)
	通信制	13(62%)	6(29%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)
	三課程	76(48%)	52(33%)	32(20%)	0(0%)	0(0%)

◆映画を観て、どのようなことに気づきましたか。

<昼間部>

- ・身近なものに対する一人一人の、他の人には見えない感じ方や考えの儂さを感じました。大切だと胸の中でどれだけ思っても言葉にしないと心の中で済んでしまう。例え互いに同じように想っていても伝わらず、胸の内に秘めたままにすることが凄く切ないと感じました。石も考え方、感じ方で視点を変えるだけで特別な存在に変えることができるということを感じました。
- ・映画の作りが凄いなと思いました。雨が降るタイミングなど、撮影にすごく工夫されていると感じました。また、普段高知の人でも「ぜよ」を使うことは滅多にないので不思議な気持ちになりました。
- ・ダムの中にもともと人が住んでいた町が沈んでいると、話ししているシーンの時、その町のことを愛している人がすごく悲しんだと思うし、自分が住んでいる町に置き換えると、悲しい気持ちまで収まらないことが、本当に起きたんだと感じました。
- ・終盤で語られていた、大切なことは気付けないだけですぐ近くにあるのかもしれないという言葉聞いて、自分でも短い人生振り返ってみて気付けないことがたくさんあることに気づきました。

<夜間部>

- ・深い意味や意図が複雑だったけど、大胆に表現されていると思いました。安藤先生の経験や体験からくる想いや感じ方にすごく共感して、かたい頭が少しやわらかくなったと思います。
- ・本当に大切なものは目に見えない。だからこそ大切にしなければいけないということを改めて感じさせられました。今があるからこそ未来がある。そして今の一瞬一瞬を大切にしていこうと気づきました。
- ・短編映画を観るのが初めてでした。私は笑える面白い映画を観ることが多いので、すべての内容を理解することはできなかったけれど、すごく「感じる」ことができたと思います。高知の自然が本当に素晴らしいものであることを改めて知れたとても良い映画でした。
- ・誰もがもっている大切なものや大切な思いは、いつも近くにあるが故にどこにあるかを忘れてしまう。それを意識していれば、失うものや目先のことだけではない物事の核心を感じることもできました。

<通信制>

- ・高知の自然の素晴らしさを再確認しました。ローテンポで進んでいく話の中で、高知の街並みから山間部へと景色が移っていく流れがとても美しく、どの場面を見てもきれいな風景が短編映画でありながら、どっしりとした作品に仕上がっていたように感じます。撮影技法やアングル構成も洗練されており、登場人物の心情が直に伝わってくる編集でした。土佐弁の多用やパンク後の流れのリアリティーのなさは気になりましたが、奥田瑛二さんの重厚な演技でバランスが取れていました。懐中電灯の光の先に、手に

持った隕石があり、流れ星のように見える演出は秀逸で良かったです。

- ・ダム湖の底に沈んだ村と、見つからなくなってしまった星のかけらと、近くにあった大切なものがなくなったと意識したとき、主人公のおばあちゃんの寂しさや、おばあちゃんの幼なじみのやりきれなさが伝わってきた気がしました。
- ・仲間同士の絆が感じられました。大切な人の死に目に会えない辛さや、大切なものは意外と近くにあることを知りました。

◆講演の中で、特に印象に残ったことはどのようなことでしたか。

<昼間部>

- ・私が考えている現実の見方とは異なり、悲観するよりも楽観しながら人生を楽しんでいるような考えでした。私は日常をドラマと感じている桃子さんの感性に新たな発見をしたのかもしれない。また、自然という日常に感じられないものに目を向け、感じることで発想の転換を生むということも印象に残りました。
- ・安藤さんがパワフルでエネルギッシュなのが講演を通して伝わってきました。普段の生活の中で起こったことが映画のネタになることもあるだろうと思っていただけ、車のことが実際に起こったことだと聞いてとても驚きました。高知のことが好きでいてくれるのがすごくうれしいです。
- ・シナリオハンティングの最中に起こったハプニングさえも映画の脚本にするという作家魂に感激しました。自分がそのような場にあたってしまっても焦りで何も考えられそうになかったからです。そして、そのハプニングを入れたことにより、フィクションの作品に現実味が出て、もっと魂が入ってしまうのだろうと考えました。それと、日の入りに出会い、ぼっと明りが点き、まだ人が住んでいるんだろうな、と言葉で言い表しづらい気持ちになりました。
- ・心が折れそうになったら、助けを求めることが大切だと分かりました。ももこさんの考え方がすごく自由で素敵でした。自分も、ももこさんのようにカッコいい美人な女性になりたいです。

<夜間部>

- ・映画を観た時から、自分が昔から感じていた考えや想いが安藤先生と似ているような気がしていたけど、先生の話聞いて、ピッタリすべてが合っているわけじゃなくて少し違う、私がまだ感じ切れていないことや経験をしてまだまだ今の自分に感じているものは、もっと広がることに改めて確信できたことです。
- ・映画のパンクするシーンを実際に起こったことに取り入れるということを知って、今、生きているこの瞬間もドラマなんだって思うと、とっても面白い、楽しい生き方ができそうだなと思いました。
- ・美術専門で大学を出ても、絵を描くことだけが仕事じゃないんだと思いました。目に映った風景が体にふわふわいって入ってくるもんがやって思いました。映画の仕事に就きたいです。
- ・映画のはじめの方で起きた車のパンクシーンが、実際に安藤さんたちにも起きていたことに驚きましたけど、実際に起きた時、最悪と思うのではなく何かのきっかけなどと思う柔軟性がすてきだと思いましたし、私もそう思えるようになりたいと思いました。
- ・映画監督を辞めたいと思ったことがあると言っていたところで、周りとの助け合いがあってこそやりたいことを実行できたり、少しくましくいなくても視点を変えることで、別のルートでうまくいくことがあるなど、計画をズレずに進行するのが大切なのではなく、表現したい、伝えたいものを伝える本当にやりたいことの核心を意識することの大切さを感じました。

<通信制>

- ・右脳と左脳の話は興味深かった。心の中で撮っている対象物の思いだったりが伝わってくる場面に出会

えてないので、写真か動画を撮ることが好きな身として体験してみたいと思いました。

- ・映画監督でも、特殊ではなく普通の仕事だということを学びました。ストップしたら、給料制ではなかったら、もう一度0から人生をやり直さないといけなくなる怖さはあるだろうけど、高知では不安がないと聞いて、考え方がすてきな人だなと思いました。周りの人の温度を感じないと折れてしまうけど、あったら自分の人体の中でも大切なこととなってきます。一瞬で撮った写真とか出来事が思い出になったり、大切なことへつながっていくことがあるから、思いがけないことを大切にしないといけないなと思いました。
- ・映画の中で出てきた石を踏んでパンクした車や、突然降り出した雨、最後のシーンでダムの方こうに見える明かりが、完全な無から生まれたものではなくて、現実起こったことであるような、物語の始まりに関するものが聞けたのが印象に残りました。
- ・映画の不思議な感じがよく分かる、きれいなような、美しいようなこと、すごい映画監督の独特な考え方は、納得できるいい考え方だと思いました。見習いたいです。人とは違う視点で見ていてすごく感動しました。

◆安藤監督へのメッセージ

<昼間部>

- ・つい昨日、「自分とは何だ。何を目指しているんだ。」と考え込むことがあったのですが、今回の講演を聞いて『自然体』であることに良いも悪いもつけなくていいんだ、と気付きました。自分の理想、なりたいもの、自分なりにありますが、叶えようとして自然体である自分を隠す必要はないのかも、と考えました。とにかく自分らしく生きています!!!自分も表現するお仕事に興味があるので、いつか一緒にお仕事できたらと思います。この度はありがとうございましたー!
- ・この度は北高校に来てくださり、大変ありがとうございました。新作映画も見せてくださり感謝申し上げます。映画後の講演も大変おもしろく、勉強になることがたくさんありました。シナリオハンティング中のトラブルまでも映画にして、その他高知の良い所まで聞くことができ、たくさんインスピレーションを受けました。本当に良い話でした。ありがとうございました!!!!!!
- ・すごくキレイでかわいかったです♡ 安藤桃子さん大好きです!!!

<夜間部>

- ・私の母が安藤サクラさんの大ファンで、高知で「0.5 ミリ」の握手会が公園であった時も母と一緒にきました。北高校に来るって聞いた時はびっくりしました。母は仕事で来ることができなかったけど、今日観た映画とあったことを話そうと思います。

<通信制>

- ・安藤さん監督作品のカケラ、0.5 ミリ見ました。アクション系の映画ばかり見ていた僕が是枝作品を見た流れで、1年前に0.5 ミリを見た時、衝撃を受けたことを今でもよく覚えています。長尺にも関わらず一切飽きのこない画作り、サクラさんの魅力あふれる演技を際立たせていた脚本のバランス。どれをとってもこんな映画がこの世にあるのかと驚きました。高知の魅力を再認識できたと同時に、自分を映像業界へと気持ちを動かしていただいたことをとても感謝しています。映画監督憧れです。安藤監督の次回作、楽しみにしています。応援しています。頑張ってください。
- ・私の祖母が安藤桃子さんのことが好きで、テレビで見た時などに話を聞いていたのですが、その瞬間もきっかけとなったいい思い出となっていたし、深く考えたことがなかったので分からなかったのですが、聞いた瞬間に思い出せることができ良かったです!